

# 大館の歴史散歩

食と生活を訪ねて ⑥

## 濁酒

(どぶろく)

稲作は今から二千四百年ほど前に日本に伝わったが、「酒造り」も、このころ稲作とともに伝わった文化の一つであったと思われる。三世紀の中国の史書「魏志倭人伝」には、「日本人がよく酒を飲む」という記述がある。また、日本の古事記神話に出てくる素戔嗚尊が八岐大蛇を退治するときに使った八塩折之酒は、日本最古の酒の記録である。このように、酒を飲む風習は、稲作の広まりとともに古くから見られた。



この地方で濁酒の自家醸造に用いられた酒甕

柳田国男は「明治大正史・世相編」の中で「麹に二日と甘酒に二夜送ると残りの三日四日の間にはもう甕にふつと湧いて居た。ちやうど遠方から太鼓の音が響いてくるやうに、この幽かな酒瓶の音に耳を傾けることが即ち家々の祭を待つ心であった」と述べ、濁酒の甕を開けたときの芳醇な匂いを「村の香」、「祭の香」と呼んでいる。農村では、自家用酒は正月、田植え期、収穫期、祭り、婚礼、葬儀など、人々が寄り合う機会に用いられる必需品であった。酒を醸すのは各家々の女性の役目で、酒造りがうまいことは嫁入りの条件でもあった。

明治二十七年の日清戦争後は、富国強兵策により国家財政の規模が急激に拡大した。国は酒造税の増額にその財源を求め、明治三十二年以後、自家用酒の製造は絶対的に禁止された。もちろん明治以前にも酒の自家醸造を禁じたことはあったが、それは凶作の年の糧米を調整する手段として行われたものであり、国費を捻出するためのものではなかった。

国のこの措置は、日々の過酷な

労働の疲れをいやすものとして自家製の濁酒を頼ってきた農民にとって大打撃であった。以後、濁酒を隠す側と摘発する側との攻防が繰り返されることになる。国や県は農民の反感を和らげるための啓蒙活動を試みたが、結果的には隠す技術が進歩しただけであった。「自分の米を原料にして、自分が飲む酒を造ることがなげいけないのだ」という農民の意識はなかなか変わるものではなかったのである。

これは明治から今日までの歴史において、国の政策によって人々の楽しみが奪われた一つの例といえるが、ともあれ、昔のおおらかだった時代には馳せるのである。市役所史跡探訪会

## ちびっ子ギャラリー おとうさん



あぶかわ ますみくん  
バドミントンをしてあそんでくれるんだよ



こしやま ともきくん  
ほくにもおかあさんにも  
とってもやさしいよ



のむら しょうくん  
おすもうごっこをする  
いつもほくがかつんだ

## カトリック幼稚園

## クイズ 広報 おおだてがヒント

- ▽問題
- 成章小・中学校で学校給食が実施されるのは来年何月から?
  - 出稼ぎ互助会の年会費はいくら?
  - 「あきたこまちプレゼント」は、先着何人分で締め切られる?
  - 「前かけ・エプロン」を大館の方言では何と言う?
  - ベニバナイチヤクソウは何科の植物?
- ▽応募方法  
はがきに住所、氏名、年齢、性別、答え(例①-②-)を書いてご応募ください

- ▽締め切り  
10月26日(水) 当日消印有効
- ▽応募先  
千017大館市字中城20番地  
広報おおだてクイズ係
- ※全問正解者の中から抽選で5人に、広報おおだて特製「秋田犬」のテレホンカードを贈ります
- ▽9月16日号の答え
- 9年度
  - 102
  - 70人
  - カモシカ
  - ハギリ
- ▽9月1日号の当選者
- 兜森喜與治さん(池内1区)
  - 佐藤まゆみさん(出川)
  - 白根弘子さん(桜町3区)
  - 田村キミエさん(有浦6丁目)
  - 奈良敏夫さん(大滝2区)
- ※応募総数83、全問正解者数80